



2022 年度 教育開発・学習支援センター年報

目 次

2022 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター活動報告	1
2022 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告	
教育サポートユニット	4
学習サポートユニット	7
データ活用推進ユニット	9
巻末資料	11

2022 年度 教育開発・学習支援センター活動報告

教育開発・学習支援センター長

1. 体制

教育開発支援機構長：	竹口圭輔（経済学部教授）
センター長：	山本兼由（生命科部教授）
教育サポートユニット・リーダー：	酒井理（キャリアデザイン学部教授）
サブリーダー：	秋野喜彦（情報科学部教授）；大木良子（経営学部教授）
学習サポートユニット・リーダー：	高橋美穂子（経営学部教授）
サブリーダー：	砂田充（経済学部教授）；田路則子（経営学部教授）
データ活用推進ユニット・リーダー：	菅幹雄（経済学部教授）
サブリーダー：	池上宗信（経済学部教授）；北浦康嗣（社会学部教授）
事務局	学務部教育支援課

2. 活動報告

(1) 全般にかかわる活動

教育開発支援機構内の他センターと協力しながら、法政大学 DX 推進計画を担う副学長プロジェクト「DX イニシアティブ」及び「大学 DP 見直しプロジェクト」に協力した。SD 支援をするため、FD ワークショップを開催した。センターの活動は 2022 年度教育開発・学習支援センター年報としてまとめ発行した。またセンターの活動を広く周知するため、センター広報指針にしたがい Web 掲示板、HP、SNS を積極的に活用した。

(2) 教育支援にかかわる活動

対面・オンライン教育を支援する各種取り組みを行った。授業単位の支援として、Web 上で授業改善アンケートの実施・集計結果の提供、Web 上で GPCA 集計情報の提供、新任教員 FD 研修会、専任教員・兼任講師を対象に 3 回の FD 教員セミナー（オンライン実施）、1 回の FD ワークショップ、教員による授業相互参観の確認、授業リフレクションを目的とした学生による授業参観を実施した。カリキュラム単位の支援として、Web 上で学部等別授業改善アンケート集計結果の提供、Web 上での学部等別 GPCA 集計情報の提供を実施した。また、教員対象アンケートの実施を検討した。全学単位の支援として、News Letter の発行及び学習支援システム運営委員会及び運用会議を運営した。また、GPA に対するガイドライン案の作成に向け検討を始めた。

(3) 学習支援にかかわる活動

対面・オンライン学習を支援する各種取り組みを行った。授業単位の支援として、「学習支援ハンドブック」の改訂及びオンデマンドコンテンツ提供、博士後期課程生に提供するプレ FD を実施し、修了者へのオープンバッジ発行を運用した。カリキュラム単位の支援として、授業形態に関する学生対象アンケートを学期ごとで実施し、学修・学習における対面・オンライン学習の支援を検討した。全学単位の支援として、新入生サポート及びピアネット運営委員会による全学的正課外学習支援及び合同研修会の実施、学習ステーション L ステゼミへの 11 回講座提供とともに、学習環境改善検討委員会の運営も行った。

3. 各ユニットの活動

(1) 教育サポートユニット

- ・「授業リフレクションのための学生による授業参観」を企画し、研修修了学生 57 名、12 授業で実施
- ・教員向けオンライン FD セミナーの企画・開催

第 1 回 FD 教員セミナー（10/14 18:00～19:30）

【巻末資料 1】

「学習支援システム『テスト/アンケート』の活用・利用方法について」

第 2 回 FD 教員セミナー（12/2 18:00～20:00）

【巻末資料 2】

「LGBTQ 等学生への配慮－教育の現場何ができるのか－」LF センター事務局／ダイバーシティ推進委員会

第 3 回 FD 教員セミナー（3/2 18:00～19:30）

【巻末資料 3】

「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.2」

小島尚人（文学部専任講師）／作村建紀（理工学部専任講師）

- ・ News Letter の発行：5 号発行
- ・ FD 教員研修を企画し、3 学部（国際文化学部・現代福祉学部・デザイン工学部）で実施
実施内容：FD 活動、剽窃チェックソフト、感染症に関する授業欠席等配慮願の受付について、学習支援システム
- ・ 教員による授業相互参観の実施
- ・ GPA 策定ガイドライン案の作成に向けた検討
- ・ 学習支援システム運営委員会の運営
- ・ 職員向け FD ワークショップの企画・開催

第 24 回 FD ワークショップ（9/2 12:30～16:30）

[巻末資料 4]

「大学職員のリスキリング ～自らを高める実践知とは～」

講演「DX 時代のリスキリングの時代～個人としての向き合い方～」

大嶋寧子氏 リクルートワークス研究所主任研究員

ワークショップ「大学職員のリスキリングを考える」

講演「情報セキュリティマネジメント・リスク管理の取り組みのご紹介」

- ・ 2022 年度教育開発・学習支援センター年報を発行

- ・ 会議等

教育サポートユニット会議オンライン会議 1 回（5/9）

Slack 会議 8 回（6/3-6、7/4、9/3-5、9/21-22、10/28-31、11/23-25、1/13-16、3/3-6）

＋事業進捗状況に応じて、Slack により適宜情報共有を実施

学習支援システム運営委員会 1 回（3/6）

学習支援システム運用会議 オンライン会議 7 回（4/26、5/24、6/21、7/19、9/27、1/31、3/9）、
メール会議 1 回（11/22）

（2）学習サポートユニット

- ・ 「学習支援ハンドブック」の活用・改訂（p.40 ならびに p.43 の例文の差し替え）

[巻末資料 7]

- ・ 学習ステーション L ステゼミに 11 回の講座提供

[巻末資料 6]

「大学図書館を有効活用！～レポート・論文資料の探し方～」図書館職員（7/7）

「レポート作成の基本の基本を学ぼう！」田路則子（経営学部教授）（7/8）

「異性装演劇が可能にするもの」竹内晶子（国際文化学部教授）（10/12）

「大規模自然災害が起きた時どうするか？」水野雅男（現代福祉学部教授）（10/27）

『させていただく』の使い方 椎名美智（文学部教授）（11/9）

「詩を読んでみよう、書いてみよう」

山崎修平（人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程 2 年）（11/16）

「グローバルな問題に対して大学生は何をすべきか：ウクライナ問題を考える」

中谷安男（経済学部教授）（11/18）

「化学の視点でプラスチックを考える」杉山賢次（生命科学部教授）（12/1）

「Python で学ぶ、相手に伝わらない悪文が生まれる理由」岸山健（兼任講師）（12/9）

「経営の経済学」砂田充（経済学部教授）（12/12）

「Python で学ぶ、母語にない音声聞き取りづらい理由」岸山健（兼任講師）（12/16）

- ・ プレ FD に関する検討、企画、実施

[巻末資料 8]

博士後期課程学生を対象としたプレ FD プログラムの実施

以下 3 つの取り組みを行った学生にオープンバッジを付与する運用を開始した

①学部授業を参観できる「授業参観制度」

②プレ教育経験・教育歴を得ることを目的とした「L ステゼミの担当」

③そのフィードバックを得るための「授業リフレクションのための学生による授業参観制度」

- ・ ピアネット運営委員会に関わる活動

全学的正課外学習支援

2022 年度ピアネット学生スタッフ合同研修会（12/10 13:00～15:30）

「ピアネットの目的と概要について」ピアネット運営委員会事務局

「プロから学ぶ SNS 等の活用のコツ〜どうやったらバズりやすい？」

株式会社サイクロン・クリエイティブ

ピアネット・コンピテンシーテストの再構築への検討

・新入生サポートに関する活動

「新入生サポートプログラム」の実施（4/1、4～8）

「学生生活なんでも相談ルーム」の実施（4/11～15）

・会議等

学習サポートユニット会議 オンライン会議 3 回（5/16、6/27、11/21）、

メール会議 3 回（10/11-14、1/19、2/21-27）

＋事業進捗状況に応じて、メーリングリストにより適宜情報共有を実施

学習ステーション運営委員会 6 回（4/20、6/8、9/5、11/9、1/11、3/8）

ピアネット運営委員会 6 回（4/27、6/15、9/14、11/16、1/18、3/15）

学習環境改善検討委員会 2 回（8/4、3/1）

（3）データ活用推進ユニット

・「学生による授業改善アンケート」の企画・分析・報告書作成（大学評価室と協働）

[巻末資料 9]

2021 年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書の作成・公表

2022 年度春学期「学生による授業改善アンケート」の企画・実施

2022 年度秋学期「学生による授業改善アンケート」の企画・実施

・「授業形態に関する学生対象アンケート」の企画・分析・報告

2022 年度春学期「授業形態に関する学生対象アンケート」の企画・実施

2022 年度秋学期「授業形態に関する学生対象アンケート」の企画・実施

2023 年度以降に向けた「授業形態に関する学生対象アンケート」調査項目の見直し

・正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討

・GPA と DP を連携させた分析の検討等

・「オンライン授業に関する教員対象アンケート」の検討

・会議等

データ活用推進ユニット会議 5 回（4/27、7/4、10/12、11/28、2/27）

＋事業進捗状況に応じて、メーリングリストにより適宜情報共有・会議を実施

4. 学内会議

（1）教育開発支援機構企画委員会 9 回（4/28、5/19、7/14、9/22、10/20、11/17、12/22、1/26、3/16）

（2）ユニット・リーダー会議 10 回（4/12、5/10、6/7、7/5、9/6、10/4、11/1、12/6、1/17、3/7）

5. 所属学会・参加団体・外部対応

（1）大学教育学会：団体会員

（2）初年次教育学会：機関会員

（3）日本リメディアル教育学会：賛助会員

（4）全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPFF：Japan Private Universities FD Coalition Forum）

（37 大学加盟）：幹事校

臨時幹事会・総会（4/26）、幹事会・総会・シンポジウム（6/18）

幹事校・会員校ミーティング・懇談会（1/27）

（5）関東圏 FD 連絡会（青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学）

連絡会（6/23）

（6）オンライン学生 FD 会議（嘉悦大学学生 FD 実行委員会主催）（3/4）

6. その他

学外セミナー参加

嘉悦大学授業 FD「100 分授業への対応について」での講演（2/15）：山本センター長登壇

大学コンソーシアム京都「第 28 回 FD フォーラム」（2/18、23～25）：教職員 6 名

以 上

2022 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告

<教育サポートユニット>

I. 2022 年度活動計画

1. ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

秋野喜彦（情報科学部）**
大木良子（経営学部）**
小島尚人（文学部）
酒井理（キャリアデザイン学部）*
高見京太（スポーツ健康学部）
根橋巧（学務部教育支援課）
松岡駿太（リカレント・通信教育センター事務部通信教育部事務課）
[事務局]鍋田純子（学務部教育支援課）

2. 活動目的

授業レベル、学部・研究科レベル、全学レベルそれぞれでの教育支援を行う。

3. 活動計画

（1）授業レベルでの教育支援

- ① 授業リフレクションのための学生による授業参観
 - ・ 教員の応募が少ない状況への対応（とくに専任教員）
 - ・ 兼任講師への周知とニーズに応える工夫をする
- ② FD 教員セミナー
 - ・ 2 回実施 11 月、1 月（変更の可能性あり）
 - ・ 昨年度テーマ：剽窃チェックソフト活用、授業における著作権・ベストティーチャーによる授業運営の工夫
- ③ Newsletter の発行
 - ・ 年間 6 回発行予定（6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、1 月）
 - 3 回は教員セミナーに関しての情報発信
 - 剽窃チェックソフト活用、学習支援システム関連テーマで 2 回
 - 授業リフレクションの学生のための授業参観関係で 1 回

（2）学部・研究科レベルでの教育支援

- ① 学部教授会への FD 研修
 - ・ 春学期、秋学期で募集（通年 2 学部実施）
 - ・ 研修テーマ（FD 活動、「剽窃チェックソフト」「学習支援システム」のインストラクション）
- ② 教員間授業参観の促進

（3）全学レベルでの教育支援

- ① GPA ガイドライン案の作成と活用方法の検討
 - ・ オンライン化による水準変化とガイドラインの検討
 - ・ 学習成果としての GPA 活用方法（学生サイド）
 - ・ 教育成果としての GPCA 活用方法（教員サイド）
- ② 学習支援システム運営委員会・運用会議の運営
 - ・ システムの安定的運用及び改善に向けた意見集約
- ③ FD ワークショップの実施
 - ・ 1 回実施（7 月）
 - ・ 昨年度テーマ：ハイブリッド形態の授業実施の困りごと共有

（4）その他

- ① 年次報告書の作成

Ⅱ. 2022 年度活動実績（報告）

1. 授業レベルでの教育支援

①授業リフレクションのための学生による授業参観（旧学生モニター制度）の活性化

[巻末資料 5]

実施期間：2022 年 6 月 9 日（木）～7 月 20 日（水）

2022 年 10 月 17 日（月）～12 月 23 日（金）

参加学生：申込者 104 名；研修修了者 57 名；派遣者 34 名（のべ数）

実施授業数：12 授業（教員 10 名）

②FD 教員セミナー：3 回実施

（1）2022 年度第 1 回 FD 教員セミナー（Zoom によるオンラインでの実施）

[巻末資料 1]

開催日時：2022 年 10 月 14 日（金）18:30～19:30

テーマ：学習支援システム「テスト/アンケート」の活用・利用方法について

参加者数：95 名

（2）2022 年度第 2 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 2]

開催日時：2022 年 12 月 2 日（金）18:00～19:30

テーマ：LGBTQ 等学生への配慮 ―教室の現場は何ができるのか―

参加者数：71 名

（3）2022 年度第 3 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 3]

開催日時：2023 年 3 月 2 日（木）18:00～19:30

テーマ：学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.2

参加者数：140 名

③Newsletter の発行：5 号発行

名称：LF センター News Letter

発行：2022 年度 1 号 2022 年 9 月 29 日（木）

2022 年度 2 号 2022 年 11 月 11 日（金）

2022 年度 3 号 2023 年 1 月 17 日（火）

2022 年度 4 号 2023 年 3 月 8 日（水）

2022 年度 5 号 2023 年 3 月 20 日（木）

2. 学部・研究科レベルでの教育支援

①学部教授会への FD 研修：3 回実施

（1）国際文化学部教授会における研修

実施日時：2022 年 7 月 8 日（火）15:20～15:40

テーマ：剽窃チェックソフト活用

参加者数：41 名

（2）現代福祉学部教授会における研修

実施日時：2022 年 10 月 5 日（水）15:30～16:00

テーマ：剽窃チェックソフト活用、LMS を活用した書類等の授受等

参加者数：20 名

（3）デザイン工学部教授会における研修

実施日時：2022 年 11 月 8 日（火）15:00～15:30

テーマ：FD 活動について、剽窃チェックソフト活用、学習支援システムの一層の活用

参加者数：30 名

②教員による授業相互参観の実施

実施期間：2022 年 5 月 6 日（金）～12 月 24 日（土）

実施授業数：110 件（3/15 時点での把握数として）

3. 全学レベルでの教育支援

①GPA ガイドライン案の作成に向けた検討

GPA の活用方法の現状把握・再確認、GPA の経年変化のまとめ、他大学への調査実施等

②学習支援システム運営委員会・運用会議の運営

学習支援システム安定的運用と改善に向けた施策実施、リプレイスに向けた意見聴取等の実施

③FD ワークショップの実施

第 24 回 FD ワークショップ（オンラインでの実施）

[巻末資料 4]

開催日時：2022 年 9 月 2 日（金）12:30～16:30

テーマ：大学職員のリスキリング ～自らを高める実践知とは～

参加者数：90 名

4. その他

①年次報告書の作成

「2022 年度教育開発・学習支援センター年報」を発行した。

以上

<学習サポートユニット>

I. 2022 年度活動計画

1. ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

杉山 賢次（生命科学部）
砂田 充（経済学部）**
高橋 美穂子（経営学部）*
竹内 晶子（国際文化学部）
田路 則子（経営学部）**
水野 雅男（現代福祉学部）
柳瀬 和真（大学院事務部大学院課）

[事務局] 五十嵐 基（学務部教育支援課）

2. 活動目的

学習サポートユニットの主たる活動目的は、学生の主体的な学習をサポートするための、①ハード・ソフト両面に渡る教育・学習環境の整備を行うこと、②正課外プログラムの企画、運営及び実施を行うことである。

3. 活動計画

上記の目的を達成するために、次の学習支援活動を実施する

- (1) 学習支援ハンドブック活用の検討
→授業レベルでの学習支援
- (2) 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミ提供）
- (3) プレFD プログラムの検討
→学部・研究科レベルでの学習支援
- (4) 学習環境改善検討委員会の運営
→全学レベルでの学習支援
- (5) ピアネット運営委員会の運営、ピアネットコンピテンシーの測定
- (6) 学習ステーションが主催となるプログラムの企画、運営及び実施
→その他の学習支援

(1) 学習支援ハンドブック活用の検討

- ① 学習支援ハンドブックの内容と連動したL ステゼミを実施する
- ② 授業での活用促進を目的として、ハンドブックの内容に関するオンラインクイズの作成を検討する（教育支援ユニットとの連携）。
- ③ 2022 年度版の修正を行うとともに、必要と思われる箇所は加筆し、内容の充実を図る。

(2) 学習ステーション「L ステゼミ」の実施

- ① 学習支援ハンドブックの内容と連動した「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供するテーマを提供する。
- ② 講師をユニット・メンバーに限定せず、学内の教員に対象を広げて募集することを検討する（学習ステーションの存在や活動が教員間で必ずしも共有されていないことから、学習ステーションが行っている活動の認知度を上げることが目的）。

(3) プレFDプログラムの検討

- ① 博士後期課程学生が学部授業を参観できる「授業参観制度」の実施案を検討する。
- ② 博士後期課程学生がプレ教育経験・教育歴を得られるよう「L ステゼミを担当」すること、さらに当該L ステゼミに対するフィードバックを得るために「授業リフレクションのための学生による授業参観制度」を活用することを検討する。

(4) 学習環境改善検討委員会の運営

- ① 対面とオンライン授業が共存する状況での学習環境の支援と整備を行う。

(5) ピアネット合同研修会、ピアネットコンピテンシーの測定

- ① ピアネット合同研修会の企画と実施を行う
- ② ピアネットコンピテンシーの測定にあたり、質問票調査ではなく、ピアネット所属学生へのインタビューを実施する（調査結果が一定程度蓄積された際に、ピアネットコンピテンシーとして示す方針）。

(6) 新入生サポートプログラムの実施

- ① 学習ステーションが主催となり、2022年4月1日（金）・4月4日（月）～4月8日（金）の土日を除く6日間にわたり開催した。
- ② 今年度より新入生サポートの終了後、学習ステーションにスタッフが常駐し、新入生の相談を受け付ける「学生生活なんでも相談ルーム」を1週間実施した。

II. 2022 年度活動実績（報告）

1. 学習支援ハンドブック活用の検討

【巻末資料 7】

学習支援ハンドブックの内容と連動したLステゼミを春学期に実施した。また、教員より寄せられていた修正依頼に対応し、p. 40 ならびに p. 43 の例文の差し替えを行い、関連個所の加筆修正を行った。

2. 学習ステーション「Lステゼミ」の実施

【巻末資料 6】

Lステゼミに11回の講座提供を行った（タイトル・概要・担当者・実施日は資料1を参照）。今年度は講師をユニット・メンバーに限定せず、学内の教員に対象を広げて募集した。

3. プレFDプログラムの検討

【巻末資料 8】

博士後期課程学生を対象としたプレFDプログラムを実施した。プログラムの内容は、①学部授業を参観できる「授業参観制度」、②プレ教育経験・教育歴を得ることを目的とした「Lステゼミの担当」と③そのフィードバックを得るための「授業リフレクションのための学生による授業参観制度」である。さらに、これら3つの取り組みを行った学生にオープンバッチを付与するための申請を行った。

4. 学習環境改善検討委員会の運営

2022年8月4日（木）に第1回学習環境改善検討委員会を開催し、対面授業が主流となっていることに伴って発生している学習環境の課題について意見交換を行った。2023年3月1日（水）に第2回を開催し、授業時間割の再検討に向けた意見聴取等を実施した。

5. ピアネット合同研修会、ピアネットコンピテンシーの測定

ピアネット学生スタッフ合同研修会を2022年12月10日（土）に対面で実施した。2つの講演（「ピアネットの目的と概要」、「プロから学ぶSNS等の活用のコツ～どうやったらバズりやすい？」）の後、学生スタッフ同士の意見交換会を実施した（概要は実施報告書ならびにプログラム、資料2・3を参照）。また、2022年度第5回ピアネット運営委員会（2023年1月18日（水）実施）にて、新たなピアネット・コンピテンシーテストの構築に向けた検討のため、事務局から各部局に、学生スタッフとの面談時の質問事項（特定の質問事項がない場合は過去2年の質問実績）について聴取を行った。

6. 新入生サポートプログラムの実施

学習ステーションが主催となり、2022年4月1日（金）・4月4日（月）～4月8日（金）の土日を除く6日間にわたり開催した。今年度より新入生サポートの終了後、学習ステーションにスタッフが常駐し、新入生の相談を受け付ける「学生生活なんでも相談ルーム」を1週間実施した（資料4を参照）。

以上

<データ活用推進ユニット>

I. 2022 年度活動計画

1. ユニット・メンバー（五十音順、*ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

池上宗信（経済学部）**

彌富仁（理工学部）

岩田裕美（学務部教育支援課）

北浦康嗣（社会学部）**

菅幹雄（経済学部）*

杉野誠（人間環境学部）

久井英輔（キャリアデザイン学部）

松本雄大（総長室大学評価室）

森山祐紀（総長室大学評価室）

[事務局] 齊藤光平（学務部教育支援課）

2. 活動目的

「学生による授業改善アンケート」の分析・報告書作成、「授業形態に関する学生対象調査報告書」の分析・報告書作成、正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討、GPA と DP を連携させた分析・検討。

3. 活動計画

（１）「学生による授業改善アンケート」の分析・報告書作成

昨年度に実施した「学生による授業改善アンケート」の分析・報告書作成を行う。

（２）「授業形態に関する学生対象調査」の実施・分析・報告書作成

2021 年度春学期に実施した「授業形態に関する学生対象調査」について、2022 年度も継続して実施し、分析・報告書作成を行う。

（３）正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討

どのような学習成果の可視化の事例があるのか、他大学などの事例を調べる。

（４）GPA と DP を連携させた分析を検討する。

新たに GPA と DP を連携させた分析を検討し、今後の発展を探る。また、コロナ禍の影響を特に検討する。

II. 2022 年度活動実績（報告）

1. 『2021 年度学生による授業改善アンケート全学集計結果報告書』の作成

[巻末資料 9]

（１） ユニット・メンバーが『2021 年度授業改善アンケート全学集計結果報告書』を作成した。

（２） 同報告書（学部・大学院）は第 2 回 データ活用推進ユニット会議（2022 年 7 月 4 日（月）実施）に報告、承認された。

（３） 同報告書（学部・大学院）は第 4 回ユニット・リーダー会議（2022 年 7 月 5 日（火）実施）に報告、承認された。

（４） ユニット・リーダー会議承認後、第 8 回学部長会議（2022 年 7 月 21 日（木）実施）で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

2. 2022 年度「授業形態に関する学生対象アンケート」の実施・分析・報告

- (1) 同アンケート調査は「学生による授業改善アンケート」と同時期に法政大学アンケートシステムを用いて、全学部生・大学院生（通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む）を対象として実施された。
- (2) 春学期のアンケート調査実施後、教育開発・学習支援センター内で集計を行ったものを、第 3 回データ活用推進ユニット会議（2022 年 10 月 12 日（水）実施）で検討の上、承認を得た。
- (3) 同報告書は第 7 回ユニット・リーダー会議（2022 年 11 月 1 日（火）実施）で報告、承認された。
- (4) ユニット・リーダー会議承認後、第 13 回学部長会議（2022 年 11 月 10 日（木）実施）で報告した。
- (5) 次年度の授業形態に関するアンケートの調査項目の改訂案を検討した。

3. 2022 年度「学生による授業改善アンケート」の実施

2022 年度「学生による授業改善アンケート」を春・秋学期に実施した。

【通学課程】

春学期前半（デザイン工学部・デザイン工学研究科・市ヶ谷文系研究科）：2022 年 5 月 19 日（木）～6 月 8 日（水）

春学期期末（全学部・研究科）：2022 年 6 月 30 日（木）～8 月 8 日（月）

秋学期前半（デザイン工学部・デザイン工学研究科・市ヶ谷文系研究科）：2022 年 10 月 26 日（水）～11 月 16 日（水）

秋学期期末（全学部・研究科）：2022 年 12 月 7 日（水）～2023 年 2 月 7 日（火）

【通信教育課程】

ゴールデンウィークスクーリング：2022 年 5 月 5 日（木）～5 月 12 日（木）

大阪市スクーリング：2022 年 5 月 20 日（金）～5 月 29 日（日）

仙台市スクーリング：2022 年 6 月 3 日（金）～6 月 12 日（日）

前期週末スクーリング：2022 年 6 月 27 日（月）～7 月 18 日（月）

春期スクーリング・前期メディアスクーリング：2022 年 6 月 30 日（木）～8 月 8 日（月）

夏期スクーリング：2022 年 7 月 27 日（水）～8 月 17 日（水）

札幌市スクーリング：2022 年 10 月 10 日（月）～10 月 17 日（月）

名古屋市スクーリング：2022 年 11 月 4 日（金）～11 月 11 日（金）

後期週末スクーリング：2022 年 11 月 21 日（月）～12 月 12 日（月）

秋期スクーリング・後期メディアスクーリング：2022 年 12 月 7 日（水）～2023 年 2 月 7 日（火）

福岡市スクーリング：2022 年 12 月 16 日（金）～12 月 23 日（金）

冬期スクーリング：2023 年 1 月 24 日（火）～2 月 10 日（金）

4. 正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討

他大学の事例を確認したが、特に魅力的なものはなかった。

5. GPA と DP を連携させた分析の検討

今後の各学部の DP の見直しを待つことになった。

6. 教員を対象とするアンケート調査の検討

ユニット・リーダー会議で教員を対象とするアンケート調査を検討することが提案され、ユニットで検討を行った。

以上

巻末資料

1 第1回 FD 教員セミナー

「学習支援システム『テスト/アンケート』の活用・利用方法について」
(2022年10月14日)

2022年度第1回FD教員セミナー

FD

学習支援システム「テスト/アンケート」 の活用・利用方法について

学習支援システムのなかでも、最もお問い合わせの多い「テスト/アンケート」の機能について、学習支援システムの開発・運用担当者をお招きして研修を実施します。基本的な操作説明に加え、よくある質問について操作方法をご紹介します。また、事前に質問も募集し、ご回答いたします。
「テスト/アンケート」の機能を利用したことのない方も、また、やむを得ずテストが受けられなかった学生の対応に困ったといった経験のある方も、苦ってご参加ください。

日時 2022年10月14日(金) 18:00~19:30(予定)

開催方法 Zoomによるオンライン開催 ※録画による後日配信は行いません

対象 本学教員(専任教員・兼任講師)

定員 なし

プログラム

セミナー内容

- 1 セミナーの概要
- 2 テスト/アンケートの概要、基本作成手順、各項目の説明
- 3 よくある質問から
- 4 質疑応答
(事前に受け付けたご質問より抽出回答)

主な説明事項

- ・問題作成に関する操作(基本操作/問題プール/ランダム出題 他)
- ・通知メールについて
- ・再試験・追試験に関する操作
- ・テスト結果のエクスポート方法
- ・学生視点の回答操作 等

参加申込方法 締切: 10月12日(水)

下記のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
(<https://forms.gle/VePePitL7f7mU77>)
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(@hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報は厳重に管理し、本イベント以外の目的で使用いたしません。

申込フォームにて質問も受付中です。
(質問受付は9月30日(金)迄)

主催 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

2 第2回 FD 教員セミナー

「剽窃チェックソフト(Turnitin)の利用方法について」(2022年12月2日)

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
法政大学ダイバーシティ推進委員会

2022年度第2回FD教員セミナー

対象 本学教員(専任教員・兼任講師)
職員、教諭 他

開催方法 Zoomによるオンライン開催
録画による後日配信は行いません

LGBTQ等学生からの授業に関する相談事例や、「性的指向および性自認を理由とするわたしたちが社会で直面する困難のリスト(LGBT法連会作成)」等を参考に、教室の現場におけるLGBTQ等学生への配慮について学びます。

LGBTQ等 学生への 配慮

教室の現場は何ができるのか

2022年12月2日(金)

18:00~20:00

● 申込み方法

右記QRコード、または下記URLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
(<https://forms.gle/d4tgc-Pm5kqPAN76>)
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(@hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報は厳重に管理し、本イベント以外の目的で使用いたしません。

○ 申込締切
12月1日(木) 17:00

● 講演 葛西真記子氏
鳴門教育大学人間教育専攻
心理臨床コース教授
SAG徳島 代表

● ワークショップ
教室の現場におけるLGBTQ等
学生への配慮に関するケーススタディ

お問い合わせ
法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

なぜ大学でセクシュアル・マイノリティへの対応が必要なのか？

- ・ 学生にとって専門知識を身に着けるだけでなく、社会とつながり、就職に向けて、将来について考える重要な場である
- ・ 当事者の学生にとっては、様々なハラスメントに遭遇する可能性がある
 - ・ メンタルヘルスの悪化、成績低下、中退、就職困難、金銭トラブル、恋愛・友人関係のトラブル
- ・ 鳴門教育大学の場合は、教員になる学生にとっては、これから対応する児童生徒の理解のために必要である

11

3 第3回 FD 教員セミナー

「授業目的公衆送信制度の理解・学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫」
(2023年3月2日)

主催：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター **FD**

2022年度第3回FD教員セミナー

学生が選ぶベストティーチャーによる
授業運営の工夫 vol.2

昨年好評だった「学生が選ぶベストティーチャー」受賞教員による講演の第2弾です。実際に授業を受けている学生から多くの支持を受けた授業運営の工夫を紹介し、セミナー内では質疑応答の時間も設けますので、奮ってご参加ください。

日時 2023年3月2日(木) 18時～19時半

開催方法 Zoomによるオンライン開催
※録画による後日配信は行いません

対象 本学教員(専任教員・兼任講師) **定員** なし

講師
小島 尚人
文学部専任講師
2020・2021年度受賞
作村 建紀
理工学部専任講師
2021年度受賞

参加申込方法
下記のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
URL: <https://forms.gle/5Gt8o3X7Zmhe6A>
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス (@hosei.ac.jp) をご入力ください。
※個人情報は厳重に管理し、本イベント以外の目的では使用いたしません。

申込締切 3月1日(水) 17:00

お問い合わせ 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp 法政大学 HOSEI UNIVERSITY

授業の主題: 英米文学研究をめぐる4つの問い

- ① 文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
- ② 文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
- ③ 文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
- ④ 文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか

⇒小説、映画、アニメ、漫画、などを題材に
おもしろさを**体験的に**学ぶ

良かったと思われる3つのポイント

- ① 授業の分かりやすさ
- ② 学生同士の交流の場
- ③ 質問のしやすさ

何が良かったのか?

4 第24回 FD ワークショップ

「大学職員のリスクリング ～自らを高める実践知とは～」(2022年9月2日)

FD 法政大学第24回FDワークショップ

主催：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター/学務部
共催：千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム
(千代田区キャンパスコンソ)

大学職員のリスクリング～自らを高める実践知とは～

近年、社会全体でデジタル化(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みが進むなかで、大学においても、オンライン授業やハイフレックス授業等、デジタル技術を効果的に活用し、ポストコロナ時代の質の高い効果的な教育を推進することが課題とされています。また、現在、文部科学省で検討している大学設置基準改正案では、「教員組織」と「教育研究活動組織」に改め、専務職員が教員と適切な役割分担の下で協働し、組織的な教育研究活動に参画することがさらに明確にされます。

このように、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代で、教育のあり方や教育研究運営体制も大きく変わっていくなかで、今後大学職員に必要とされるスキルはどのように変化していくのでしょうか。また、この変化に私たちはどのように適応していけばよいのでしょうか。

この研修では、大学職員にとって必要なリスクリングの内容と実践する方法を考えます。

日時 2022年9月2日(金) 12:30～16:30

開催方法 Zoomによるオンライン開催(URL等は後日ご案内)

対象 法政大学教職員(※学務部専任職員は参加必須・参加申込も必須)
千代田区キャンパスコンソ教職員

プログラム

- ◆開会挨拶 12:30～12:35
- ◆講演「DX時代のリスキングの時代～個人としての向き合い方～」 大嶋 幸子 氏 リクルートワークス研究所主任研究員 12:35～13:30
- ◆ワークショップ「大学職員のリスキングを考える」 13:40～15:40
- ◆「情報セキュリティマネジメント・リスク管理の取り組みのご紹介」 15:50～16:20
- ◆閉会挨拶 16:20～16:30

【参加申込方法】

- ◆以下のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
- ◆学務部専任職員は参加必須ですが、申込手続きも必ず行ってください。
- ◆法政大学教員で学務部専任職員以外の方は、申込時に必ず所属部長の許可を得てからお申込みください。
- ◆教員の方も参加可能です(一部のみの参加可)。

URL: <https://forms.gle/5Gt8o3X7Zmhe6A>
申込締切: 2022年8月26日(金)
※個人情報は厳重に管理し、本イベント以外の目的では使用いたしません。

お問い合わせ 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター/学務部
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp 法政大学 HOSEI UNIVERSITY

5 授業リフレクションのための学生による授業参観

専任教員・兼任講師の皆さまへ

2022年度春・秋学期

授業リフレクションのための学生による授業参観

学生の視点からの意見を取り入れ、教員の授業や教育方法の改善に活かすための制度です。
自身のオンライン授業の振り返り、改善等に活用できます。

- 授業改善に関心の高い学生を募集し、事前研修を実施
- 複数名の学生（聴修学生以外）を派遣し、教員と事前打ち合わせを実施
- 所定のチェックシートに基づき、学生は受講者と異なる視点から客観的に授業を参観し、授業の進め方（話し方、板書方法等）をチェック（専門的な内容を除く）
- 学生から該当授業担当教員のみに建設的なフィードバックを行う（フィードバックの内容を第三者が見ることはありません）
- 録画したZoom等でのオンライン授業について、本制度を活用することも可能
- 純粋な学生の意見聞くチャンス（学生から評価されるわけではありません）

～前年度チェックシート～

※今後実施の可能性がります

～以前に利用した先生方へ～

「学生の目から見て授業がどうだったか」をフィードバックすることで、学生のレベルが向上しました。学生にはお礼（クオカード）が送られました。お返しにメッセージが来ることも多いです！また利用させていただきます！

「学生に評価される」と知覚して、教員が持つ授業の悩みや課題について悩みに乗って、具体的なアイデアまで出てきました。学生からのフィードバックの価値は、本当に大きかったです！

もちろん各自項目の追加も可能です！

実施の流れ

- 希望する授業について、以下のフォームより申し込みください。
- 事前研修を受けた学生の中から、複数名の学生を授業に派遣します。
- 学生は事前に先生方と打ち合わせを行ったうえで、1コマの授業を参観します。
- 授業参観後に、学生は集約した意見を先生方に直接フィードバックします。

募集及び実施期間

【春学期】募集期間：2022年5月27日（金）～2022年6月24日（金）
実施期間：2022年6月9日（木）～2022年7月20日（水）

【秋学期】募集期間：2022年9月16日（金）～2022年12月9日（金）
実施期間：2022年10月17日（月）～2022年12月23日（金）

申込方法

<https://forms.gle/m86WcwMZK1M3LyeTA>

※学生の応募状況によりご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

授業の会場の異動、受講学生の不足、についても、学生からの情報的な声を聴ける貴重な機会です！ぜひご利用ください！

お問い合わせ：
法政大学教育開発支援センター（事務局）
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoku@hosei.ac.jp

2022年度春・秋学期

学生募集 授業リフレクションのための学生による授業参観

教育開発・学習支援センターでは、学生と教員が共に授業をより良くすることを目指し、

学生による授業参観の参加者を募集します。

学生は受講者としてではなく、教員でも受講者でもない第三者の立場として

授業参観をしていただき、授業に関して気付いた点を

教員にフィードバックしていただきます。

【授業リフレクションのための学生による授業参観とは】

学生視点の意見を取り入れ、授業改善に活かすための制度です。
事前研修を受けた学生により、**授業参観**を行います。
学生は授業参観を行い、チェックシートを基に学生の視点から、授業の進め方（話し方、板書方法等）について、気付いた点を教員にフィードバックします。
教員は、学生からのフィードバックを受けて得た気づきを、今後の授業改善に役立てます。

【応募条件】応募は以下の条件を満たす学生です。

- 法政大学に在籍中の学部生（通学研修）・大学院生
- 企画の主旨に賛同し、積極的に責任のある意見を発言できる方

事前研修に必ず参加できること（※2021年度秋学期に研修を受け修了した方は参加不要）

事前研修日程 5月28日（土）13:00～（予定） ※Zoomにて実施（1時間半程度）

【授業参観の実施期間】 ※秋学期に参観の希望する上記事前研修に参加してください。

＜春学期＞ 2022年 6月 9日（木）～2022年 7月20日（水）
＜秋学期＞ 2022年 10月17日（月）～2022年12月23日（金）
※上記期間のうち募集のあった任意の授業1コマ
（複数回参加も可ですが、応募いただいた授業でなくても構いません。予めご了承ください。）

【実施までの流れ】

事前研修(90分) ⇒ 担当教員と事前打ち合わせ ⇒ 授業参観(100分) ⇒ 教員へのフィードバック
※ 授業スケジュールとのマッチングが成立しない場合は、授業への参観ができません。
参観された方には、謝礼として5,000円分のクオカードをお送りします。

【申込方法】
下記より申し込みください。（法政大学gmailへのログインが必要です）
<https://forms.gle/5z4J4c8wvYhYhG69>

お問い合わせ：
法政大学教育開発支援センター（事務局）
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoku@hosei.ac.jp

6 学習サポートユニットとの連携(Lステゼミ)

学習ステーション BT3F

Lステゼミ

Lステゼミとは…教員などが講師となって行うショートゼミです。語学・教養・専門と話題は多岐にわたり、不定期で開催しています。学生力として期待される「知識・理解」を深めることを主目的として、気軽に学ぶ機会を提供しています。

大学生のレポート作成の基本を学ぼう

講師：経営学部 教授 田路 則子

内容

このLステゼミでは、主に初めてレポートを作成する1年生を対象に、レポート作成におけるルールや注意点といった基本を学びます。質疑応答のパートでは、レポート作成時における日頃の疑問にもお答えします。

日時：7月8日（金） 15:00～16:00

場所：Zoom

お申込みはこちら

QRコードからアクセスの上必要事項を入力してください。

*申込者に後日ZoomのURLをお送りします。

申込締切 7/6(水)17:00

TEL: 03-3264-9072 l-station-jmu@ml.hosei.ac.jp 学習ステーション

学習ステーション ボサナード・タワー3階ピア・ラーニング・スペース

Lステゼミ

経営の経済学：価格戦略を中心に

講師：経済学部 教授 砂田 充

内容

マーケティング、特に価格戦略の経済分析について、具体的な事例を使ってお話します。

日時：12月12日（月） 13:40～14:40

場所：Zoom

申込方法

QRコードからアクセスの上必要事項を入力してください。

*申込者に前日までにZoomのURLをお送りします。

申込締切 12/8(木)17:00

TEL: 03-3264-9072 l-station-jmu@ml.hosei.ac.jp 学習ステーション

(拔粹)

博士後期課程学生向け PREFDのご紹介

PREFDとはこれから大学教員になろうとする大学院生・ポストドクターのための教育能力の向上を目的とした活動 (Faculty Development) のことです。

1. Lステゼミ (学習ステーション実施プログラム)

教員などが講師となって、本学生を対象に単発で行うショートゼミです。多様なテーマについて、学力として期待される「知識・理解」を深めると同時に、気軽に学ぶ機会を学生に提供することを目指すとして実施しています。

本ゼミの講師として、博士後期課程に在籍している大学院生を募集します。授業形式 (講義形式/演習形式等) や扱うテーマはご自身で設定可能です。

通常のテーマ等、詳細は学習ステーションWebサイト (<http://pernet.hioki.ac.jp/taisan/category/class/faculty-education-seminar/>) をご覧ください。

2. 授業リフレクションのための学生による授業参観

学生の視点からの意見を取り入れ、授業や教育方法の改善に活かすための制度です。

授業改善に関心のある学生を募集し、事前研修を実施します。

参観授業は所属のチェックシートに基づき、一般の受講生と異なる視点から客観的に授業を参観し、授業の進め方をチェック (専門的な内容を除く)、担当教員に建設的なフィードバックを行います (学生から評価をされるわけではありません。フィードバックの内容を第三者が見ることもありません)。

3. 学部授業参観

大学教員を目指す博士後期課程の学生が、2021年度に「学生が選ぶベストティーチャー賞」を受賞した教員の授業を参観することで、授業実施における各種スキルを身につけるための制度です。

2. Lステゼミ

参加方法 Zoomにて実施

参加対象 PG～PhD

実施の流れ

- ①希望テーマのLステゼミに参加しください。(「企画」/「企画」/「Lステゼミ (講師) 希望」)
- ②参加日時等、詳細を事務局と決定し決定します。
- ③参観学生と事前打ち合わせを実施し、フィードバックを受けた内容について事前に伝えていただきます。
- ④参観を実施いたします。参観は5分で行っていただきます。
- ⑤参観後、参観学生からフィードバックを行います。

募集及び申込期間 2022年10月12日 (月)～10月14日 (金)

実施期間 2022年10月15日 (月)～10月15日 (金)

参加費 0円 (無料)

申込先 学習ステーション 参観ステーション
Mail: education-jyu@hioki.ac.jp

実施の流れ

- ①上記「1. Lステゼミ」を申し込みください。
- ②参観学生と事前打ち合わせを実施し、参観の学生と授業に参観します。
- ③参観生事前に担当講師と打ち合わせを行うことで、Lステゼミを参観します。
- ④参観後、参観生からフィードバックを行います。

3. 授業相互参観

参観対象	参観先	実施期間
新島田部	堀本: 紀彦 (言語学教授)	2022年10月21日 (水)～12月24日 (土)
山門部	北村 昭 (生命科学部にて参観対象)	2022年10月21日 (水)～12月24日 (土)
	小野 真由 (生命科学部にて参観対象)	
	川島 健一 (経済学部教授)	
	小島 真 (化学工学部教授)	
	山田 隆 (経済学部教授)	
	吉村 隆 (経済学部教授)	
	吉村 隆 (経済学部教授)	
	横山 規子 (人間生活学部教授)	

参観対象 学部教員

実施期間 2022年10月21日 (水)～12月24日 (土)

参観先 学部教員授業参観

申込先 Mail:kyouiku@hioki.ac.jp

※申し込み、参観費及び日程は随時募集します。

※参観生は事前に参観先と打ち合わせを行うことで、参観を行います。

9 2021 年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書

(抜粋)

 2021 年度 「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書 2022 年 7 月 学部..... P. 1～P. 16 大学院..... P. 17～P.28 発行: 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター	学部 1. はじめに 2004 年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005 年度より FD 推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに 17 年実施してきました。アンケートは、2009 年度の修習・修中・修末の実施、教員への報告書を添付した形式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014 年度の秋学期より Web 形式で実施するなど改善を遂げてまいりました。2017 年度からは、アンケート項目を 5 問とする大幅な変更を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。 春学期期末アンケートは、2021 年 6 月 30 日（水）～8 月 3 日（火）の期間に実施しました。4 専制の学部は、春学期前半アンケートとして、5 月 19 日（水）～6 月 8 日（火）の期間に実施しました。秋学期期末アンケートは、2021 年 12 月 8 日（水）～2022 年 2 月 8 日（火）の期間に実施しました。4 専制の学部は、秋学期前半アンケートとして、10 月 26 日（火）～11 月 15 日（月）の期間にも実施しました。 本学は法学部（市ヶ谷キャンパス）、文学部（市ヶ谷キャンパス）、経済学部（市ヶ谷キャンパス）、国際文化学部（市ヶ谷キャンパス）、人間環境学部（市ヶ谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（市ヶ谷キャンパス）、デザイン工学部（市ヶ谷キャンパス）、グローバル経営学部（市ヶ谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、現代福祉学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の 15 学部から構成され、さらに同じ学生募集として通信教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）があります。 2021 年度のアンケート対象全科目数は 9,794 科目（春学期 4,966 科目、秋学期 4,828 科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は 8,662 科目（春学期 4,514 科目、秋学期 4,148 科目）であり、延長として春学期 18.6%、秋学期 14.4%の回答率（回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率）を算出するアンケートを実施することができました。すべてのアンケートデータは毎年年度、春学期、秋学期別に表として収録しています。 本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など防衛面から 2021 年度は 1,959 科目のアンケートを廃止しました。約実習科目を科目番号で見ると、専修では 360 科目（講義全体の 7%）、演習では 964 科目（講義全体の 40%）、ゼミでは 250 科目（ゼミ全体の 7%）、実習では 127 科目（実習全体の 32%）、演習では 20 科目（実習全体の 7%）であり、全講では 238 科目（全講全体の 79%）であり、少人数で行う講義科目やゼミや研究がメインとなる科目が多くなります。これらの終業科目では、進歩のアンケートを行うなどの個別対応が行われています。 本年度アンケートを基に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは決してできないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を載せた年報報告書が、関係各々の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸いです。
---	---

2. 全学集計結果について

本報告書では、5 段階の選択回答を求めた問 1～問 4 の集計結果とそれらの分析、問 3 の回答に対する問 1 と問 2 のクロス集計とそれぞれの分析、問 4 の回答に対する問 1、問 2、問 3 のクロス集計とそれぞれの分析を載せました。

教育開発・学習支援センターの主たる目的である「教育および学びの質の向上」ですが、教職員も学生側とはその見えるポイントに少しギャップがあります。そこで、問 1～問 3 に関する「教員の教授」と問 4 に関する「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を把握しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を取り問 3 を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を取り問 4 を中心とした分析を行っています。

また、問 1～問 4 の集計結果は学部別、科目種別別、履修選択別、担当教員別、科目設置主体別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経年推移を見るため、問 1～問 4 の回答平均値と回答学生数の経年変化を示しました。

3. 教員の教授に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問 1 は、授業の工夫に対する学生の受け止めを 5 段階別として尋ねています。問 1 は「この授業では、積極的な工夫がされていきましたから」とし、それに従って、改善へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、教員の方、板書法、スクリーンを見やすく、時差、教壇や主体的な学びへの促しなど、5 段階評価でのご回答ください」とお願いしています。全学の回答割合を見ると、大衆工夫していた「5」と「4」を合わせた 74.5%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた 6.0%の学生は授業の工夫を求めていました。平均値は春学期 4.05、秋学期 4.09、中央値は春学期・秋学期ともに 4 であり、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。

評価	割合
5	40.0%
4	34.5%
3	19.5%
2	2.1%
1	3.9%

図 1

問 3. この授業内容が理解できましたか。(5 段階評価でのご回答ください)

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答割合	5	4	3	2	1	理解できなかった
<総計>	8,985	19,122	84,423	27,392	32,823	18,762	3,981	1,465	
<学部別>									
1 年	-	8,462	45,798	15,381	17,395	10,131	2,147	744	
2 年	-	5,511	22,742	6,712	9,179	5,253	1,152	446	
3 年	-	3,513	11,995	3,741	4,832	2,678	547	197	
4 年	-	1,586	3,792	1,507	1,383	693	134	75	
その他	-	50	96	51	34	7	1	3	
<科目種別別>									
講義（合計）	4,463	-	56,149	16,762	21,987	13,393	2,928	1,079	
25 人未満	962	-	3,247	1,282	1,241	541	132	51	
25-49 人	1,200	-	8,074	2,679	3,121	1,733	376	165	
50-99 人	1,181	-	16,579	4,312	6,634	4,279	1,002	352	
100-199 人	704	-	14,206	4,259	5,463	3,451	762	271	
200-299 人	241	-	6,413	1,888	2,503	1,591	307	124	
300 人以上	175	-	7,630	2,342	3,025	1,798	349	116	
演習	1,077	-	5,510	2,253	2,081	918	181	77	
ゼミ	2,862	-	17,571	6,410	6,832	3,387	698	244	
実験	232	-	2,753	823	1,132	631	132	35	
実習	241	-	1,809	907	563	307	18	14	
その他	33	-	66	33	21	11	0	1	
<履修選択別>									
必修	3,341	-	27,399	9,241	10,530	5,917	1,250	461	
その他	5,644	-	57,024	18,151	22,293	12,845	2,731	1,004	
<担当教員別>									
専任	3,717	-	41,245	13,127	16,258	9,323	1,835	702	
兼任	5,265	-	43,168	14,259	16,562	9,438	2,146	763	
<科目設置主体別>									
市ヶ谷学部	2,174	-	19,096	6,463	7,600	3,870	855	308	
市ヶ谷教養	2,379	-	18,917	6,993	7,180	3,614	826	304	
小金井学部	1,267	-	16,358	3,782	6,735	4,543	945	353	
小金井教養	574	-	6,120	1,954	2,299	1,498	266	103	
多摩学部	2,145	-	20,919	6,915	7,910	4,769	981	344	
通信学部	323	-	2,360	924	879	414	92	51	
その他	123	-	653	361	220	54	16	2	

15

大学院

1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに17年度実施してきました。アンケートは、2009年度の修業・修中・修末の実施、教員への声の届く形での実施した部をの導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を受けてきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大幅な変更を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力を依頼しました。

2021年度春学期は、2021年6月30日（水）～8月3日（火）の期間に実施しました。秋学期は、2021年12月8日（水）～2月8日（火）の期間に実施しました。4期制の研究科は2021年5月19日（水）～6月8日（火）および2021年10月26日（火）～11月15日（月）にも実施しました。

本学の大学院は、人文科学研究科（市谷キャンパス）、国際文化研究科（市谷キャンパス）、経済学研究科（市谷・多摩キャンパス）、法学研究科（市谷キャンパス）、政治学研究科（市谷キャンパス）、社会科学研究科（市谷・多摩キャンパス）、経営学研究科（市谷キャンパス）、公共政策研究科（市谷キャンパス）、人間社会研究科（多摩キャンパス）、情報科学研究科（小倉キャンパス）、デザイン工学研究科（市谷キャンパス）、政策創造研究科（市谷キャンパス）、キャリアデザイン研究科（市谷キャンパス）、看護学研究科（小倉キャンパス）、スポーツ健康科学研究科（多摩キャンパス）の13研究科と3インスティテュート（国際日本大学インスティテュート、東京社会インスティテュート、総合理工学インスティテュート）から構成され、さらに大学院の専門職学位課程として専門職大学院（法政大学院、経営大学院）があります。

2021年度のアンケート対象の全科目数は1,073科目（春学期506科目、秋学期567科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は885科目（春学期435科目、秋学期450科目）であり、結果として修士課程は春学期29.5%、秋学期28.3%の回答率（回答した学生数/回答が想定される学生数の百分率）、専門職学位課程は春学期41.0%、秋学期34.1%の回答率を誇るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは年末に年度、学期、秋学期別に集計して公表しています。

本アンケートの対象は本学部・大学院で開講する全科目ですが、少人数制やゼミナールの授業形態などの理由から専任教員関係には行っていないままです。また、2021年度は2,110科目のアンケートを収録しました。前年度科目を科目別で見ると、編成では726科目（編成全体の43%）、実習では1,047科目（実習全体の85%）、演習では208科目（実習全体の100%）であり、ゼミナールがメインとなる科目が多くなりました。

本年度アンケートを募集に終了させたのは、教員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご貢献について心から感謝申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を執した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助にあらねば幸いです。

17



図3

（4）理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めを調べるため、問3（理解度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。結果的に理解しやすいため人数が多いセルを緑に、人数が少ないセルを黄色にするようにカラスケールを施しました（以下、同義）。理解度（問3）と授業の工夫（問1）が、相関係数（線型）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、相関係数ではない（有意水準5%に38.7）、「独立である」という帰無仮説を棄却（ことがわかりました。カラスケールの相関係数は0.47（カラスケールの相関係数は、>0.25で強い関係、0.1~0.25で関係あり、0.1以下で弱い関係を示す）であり、強い関係を認めました。

表1

問1 × 問3 (%)		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	39.7	5.5	1.1	0.0	0.1	46.4
	4	16.5	18.3	3.2	0.2	0.1	38.7
	3	2.1	1.1	5.0	0.0	0.2	11.3
	2	0.3	0.5	0.8	1.0	0.2	2.8
	1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.5	0.8
計		59.2	27.5	10.2	1.9	1.1	100.0

講義内容の理解度と授業外の学習への取り組みの相関を調べるため、問3（理解度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。問3（理解度）と問2（授業外学習時間）が、相関係数（線型）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、相関係数ではないことがわかりました。カラスケールの相関係数は0.14であり、それぞれの項

20

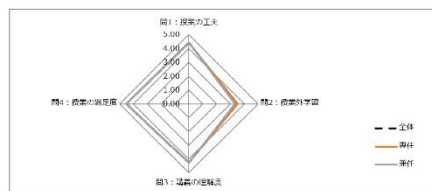


図7

6. アンケート回答傾向の経時推移

回答した学生数の推移を見ると、低学年で授業の実施を行っていました2014年度春学期までは約1,000名を越えていたアンケートをWeb化し、実施時期を期間内に広げて行っていました2016年度秋学期までは約300名に減少しました。2017年度春学期から、Web化にフロントした新しいアンケート内容に転換するとともに授業の実施としました。その結果、回答した学生数は増加し2018年度は1,434名となりました。2020年度春学期に診療研究科、イノベーションマネジメント研究科の実施したため、前年度と比較して回答者数が大きく減少しましたが、秋学期に回答者数は回復しました。2021年度は、新型コロナウイルス以前の水準に回復しました。

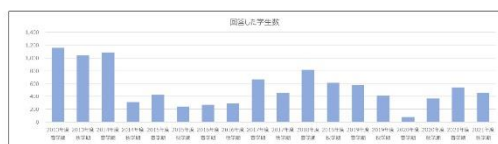


図8

各実施時期におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれ平均値（1）～（5）の平均値として算出した、2017年度春学期からの経時推移を縦軸にした。授業の工夫を尋ねた問1は、2021年度春学期の平均値4.38が秋学期でもほぼ同じ4.46となりました。授業外学習時間を尋ねた問2は、2021年度春学期の平均値3.45が秋学期でもほぼ同じ3.47となりました。講義内容の理解度を尋ねた問3は、2021年度春学期の平均値4.23が秋学期でもほぼ同じ4.32となりました。授業の満足度を尋ねた問4は、2021年度春学期の平均値4.49が秋学期でもほぼ同じ4.53とな

25

付表 大学院データ：2021年度全学集計表

注1. この表では、機能別な工夫がなされています。例えば、黒板、授業方法、教員、スクリーンを見やすさ、廊下、教員と生徒の交流への配慮など、（各項目についてご意見ください）

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答数	5 大変工夫 している	4	3	2	1 あまり工夫 していない
<総計>	885	1,001	3,396	2,010	936	347	66	39
<受講者数増減別>								
10人以上	483	-	1,088	725	270	73	9	11
10-24人	337	-	1,541	902	426	166	34	13
25人以上	65	-	768	383	240	108	23	15
<学年別>								
修士1年	-	-	479	1,660	1,005	431	181	29
修士2・3年	-	-	200	406	295	87	21	3
博士前期	-	-	39	75	57	16	2	0
その他	-	-	118	208	99	75	26	5
専門課程初級2年	-	-	100	783	428	238	79	21
専門課程初級2年	-	-	49	166	94	38	22	5
専門課程初級2年	-	-	16	102	32	51	16	3
専門課程初級2年	-	-	0	0	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	597	-	2,328	1,362	643	249	43	31
兼任	288	-	1,078	646	293	98	23	8

注2. この表に関しては、授業内容につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質疑応答。

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答数	週3回以上 学習する	週2回以上 学習する	週1回以上 学習する	週0.5回以上 学習する	週0.5回以下 学習する
<総計>	885	1,001	3,396	807	843	1,040	516	192
<受講者数増減別>								
10人以上	483	-	1,088	332	323	295	96	42
10-24人	337	-	1,541	381	399	465	249	72
25人以上	65	-	768	114	126	280	171	78
<学年別>								
修士1年	-	-	479	1,660	342	446	487	106
修士2・3年	-	-	200	406	148	99	109	38
博士前期	-	-	39	75	29	15	21	8
その他	-	-	118	208	73	75	70	27
専門課程初級2年	-	-	100	783	209	160	280	100
専門課程初級2年	-	-	49	166	47	48	39	23
専門課程初級2年	-	-	16	102	9	36	32	16
専門課程初級2年	-	-	0	0	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	597	-	2,328	587	597	689	328	127
兼任	288	-	1,078	220	246	351	188	65

27